

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100066		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター矢板		
所在地	栃木県矢板市東町1203-2		
自己評価作成日	平成30年11月17日	評価結果市町村受理日	平成31年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1 利用者様の皆様が毎日微笑んで生活が送れることを目指しています。</p> <p>2 介護度の高い方も積極的に受け入れております。</p> <p>3 ニチイ学館の全国ネットワークを使い利用職様の多様な要望に応える事が出来る事業所を目指しています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・身体拘束をしないケアについて、マニュアルを作成し職員間で意識が統一されている。利用者の意思と個性を尊重することで事故の危険性が高まることがあるが、安全に配慮し支援に取り組んでいる。</p> <p>・月1回のミーティング時に、職員で一人ひとりの利用者のケアをどのように行うかを話し合っており実践している。職員の業務シフトは、職員の家事情を考慮し、シフトを変えたりして働きやすくしている。</p> <p>・利用者の生活歴や日常生活のかかわりの中で、利用者の状態を職員全員が把握し、個人を尊重した個別ケアの支援が行われている。</p> <p>・医療連携体制により、訪問看護が週に1回来所して利用者全員の健康状態を観察している。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成30年12月5日		

a		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない		
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に利用者様の立場に立ち、その人らしく生き生きとした充実した生活が送れるよう毎日の目標を掲げ取り組んでいます。	基本理念は、認知症の進行の緩和、プライバシーの尊重、地域との交流、身体拘束の禁止など7項目がある。また事業所の月間目標を立てて、「その人らしさ」を意識して支援している。管理者は毎月の内部研修や朝のミーティング時に理念に沿った話をして実践できるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の小規模と合同でイベント開催時にご家族、近隣住民の方々に参加して頂けるよう努めています。	併設の小規模多機能型事業所と合同で開催している芋煮会は、地域の住民も参加している。事業所の駐車場で、地域の方と一緒に家庭用の花火を楽しむ機会がある。地域の方が事業所へ野菜などを寄付してくれる間柄である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出や散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり声掛けを行う事で親交を深めております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回定期開催しており、その際に頂いた意見は改善できるよう支店と協議の上、次回開催時に報告しております。	運営推進会議には、市の担当者や地域包括支援センターの職員、区長、民生委員、家族の出席により、2ヶ月に1回定期的に開催している。家族からは、利用者の健康管理などの質問があがっている。事業所からは求人募集しているがなかなか難しいことを話して、参加者のアイデアや情報を求めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、グループホーム交流会時に市の担当者様に出席して頂き、意見交換を行い、事業所との協力関係の構築に努めております。	市の担当者が運営推進会議や市内のグループホーム交流会に参加して、職員と意見交換をしている。また、特別養護老人ホームの増床や待機者の人数などの情報が提供されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年二回業務ミーティング時に身体拘束をしないケアについて協議しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	会社の方針で身体拘束をしないケアについては徹底して取り組んでいる。ベッドからの転落防止の為に、家族から拘束の希望があっても、職員の見守りでの対応をしている。事業所が2階にあるため階段からの転落防止のリスクがあるが、階段の手前に扉を付けて安全に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を「しない・させない・ゆるさない」をスローガンに掲げ防止に取り組んでおります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年2回業務ミーティングにて権利擁護について学ぶ機会を設けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の説明は管理者が行い、その際にもわからない所があれば細かくご説明させて頂き、特に利用料金に関してはご納得いただけるよう丁寧に対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、弊社独自のアンケート、お電話等で利用者様やご家族様からの意見・要望・苦情等をお聞きし、運営に活かしています。	年1回、会社独自の利用者や家族に顧客満足度のアンケートを実施して、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務ミーティング時に意見交換を行い、提案、改善等の意見が反映出来るよう機会を設けています。	月1回のミーティング時に、職員で一人ひとりの利用者のケアをどのように行うかを話し合っており実践している。職員の勤務シフトは、職員の家庭の事情を考慮し、シフトを変えたりして働きやすくしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度(時給)があり、定期的に個々への面談を実施、業務評価をするシステムがあります。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で職員研修計画を作成し研修を実施、又新入社員には指導担当者を付け、3ヶ月ごと、年間を通じて、それぞれで目標を設定し教育を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム交流会への参加により情報交換を通じ、サービスの質向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも不安が解消出来ればということで、入居前に施設見学を実施させて頂いております。又施設内では話しにくい事もあるかと思っておりますので、ご自宅等に訪問し、困っている事や不安な事がお話頂けるような関係性の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも不安が解消出来ればということで、入居前に施設見学を実施させて頂いております。又施設内では話しにくい事もあるかと思っておりますので、ご自宅等に訪問し、困っている事や不安な事がお話頂けるような関係性の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に計画作成担当者の説明にて、利用者様、家族様のご意向を確認させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家庭の暮らしを利用者様と寄り添って過ごせるよう、散歩や野菜の収穫、洗濯ものたたみや料理等、共に行うことで信頼関係の構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の様子を面会時やお電話にて説明、報告し、利用者様の病院受診時には出来る限り家族様に関わって頂けるよう、又大きなイベント時にはご家族様も参加して頂けるようご案内し、家族の絆を大切にしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室や病院等へ行く機会があり、面会も自由に出来るようになっており、ご友人がよくこられる方もいらっしゃいます。	認知症状が進行し馴染みの店など、入居後の関係継続が難しくなっている方が多いが、理容室や病院の通院は家族の協力で定期的に行くことができています。以前の職場の近くへドライブに出かけたり、事業所に友人が訪問に来たりなど、人と場のつながりの継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションへのお誘いや席の配置交換等で誰もが孤立しないよう配慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご相談がある場合は快く相談にのれるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式アセスメントを実施し、ご本人の希望や意向が把握できるよう、ご本人様・ご家族様から情報をお聞きしております。又日々の業務から利用者様の思いを汲めるように努めています。	半年に1回センター方式のアセスメントを実施している。本人の意向が確認できない場合は、今までの暮らしぶりなどを家族や友人に聞いている。本人の意向などは、職員の介護実践の中から判断・検討し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしや状況等を、ご本人様・ご家族様、ケアマネージャー等からお聞きし情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、個別記録に一人ひとりの一日を細かく記載することで現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを通じて担当者会議時に、本人様・家族様の意向に沿った、又職員等の意見アイデアを盛り込んだケアプランの作成に努めております。	月1回の会議で利用者の生活状況を確認し、家族の意見も聞いて介護計画を作成している。また、衣食住以外の本人の趣味やレクリエーションなどの活動の項目を加え、生活に楽しみが持てるように作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を個別記録に記載し職員間で共有する事で、意見交換を行い、日々のケアや介護計画等の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態によっては、受診のサポートをしております。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れによる催しの開催や、訪問美容を受けてのおしゃれを楽しむ機会等を設け、楽しんでもらえるよう支援しております。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関やかかりつけ医に受診が出来るよう対応させて頂いております。又、かかっている病院と連絡を取り合うことで利用者様が安心して生活出来るよう支援しております。	かかりつけ医への受診は家族対応なので、本人の最近の情報を持参して診てもらっている。家族が対応できない場合は、職員が受診対応をしている。医療連携体制をしているため、週1回、訪問看護師が来て利用者全員の健康管理をしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックや状態のチェックを行い、必要時には看護師に情報提供や相談を行い情報共有に努め適切な受診が受けられるよう支援しております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院のソーシャルワーカーと連絡を取り合い情報交換や相談出来るように努めております。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時等に重度化した場合を話し合い、弊社で出来ることを説明し、方針を協議しております。	急変した時は家族に連絡し、職員が救急車に乗って病院へ搬送している。事業所に看護師や医師がいないことから、積極的な看取りは行っていない。今後は、往診のできる医者の協力と事業所の体制作りが課題である。	看取りに関する職員研修マニュアルの整備や往診のできる医師との協力関係の取組みなど、利用者が最後まで事業所で過ごせる環境整備に期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内ミーティングにてマニュアルに沿った事故対応、急変時の対応の研修を行っております。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練等の実施を行うようしております。又地域住民の方にも協力して頂けるよう区長や民生員に協力をお願いすると共にこちらからも近隣の住民の方にお声掛けを行っております。	年2回行う避難訓練は小規模多機能型事業所と合同で行い、1回は夜間を想定した訓練を行っている。消防署の立ち会いのもと2階からの避難誘導を実施している。事業所では災害に備えて3日分の備蓄を用意している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを傷つけないよう充分注意を払いつつ言葉かけ、対応をとるよう心掛けています。	プライバシーに関しては、事業所内外の研修に参加したり、マニュアルを整備している。利用者支援に関する職員間の会話では、利用者に不快な思いをさせないために、小声で情報交換をしている。利用者の部屋への入室時には、必ず許可を得てから入室している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者様の訴えが汲み取れるよう、又自己決定に導けるような言葉掛けを行っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り職員の忙しい雰囲気やさぐれに、一人ひとりのペースで日々を過ごせるよう配慮しております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出等の服装の選定のお手伝いや、化粧等希望ある方には行わせて頂いております。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、片付け等できる範囲で一緒に行ったり、食事に雰囲気や暗くならないよう音楽をかけたたりしております。	ペースト食やきざみ食、食事の量など、一人ひとりの状態にあったものを提供している。食材は宅配業者から仕入れたものを使用し、追加でデザートなどを加えている。誕生日には、ケーキなどを用意して楽しんで貰えるようにしている。食事中は明るい雰囲気になるように音楽を流して食事を摂っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 syokuji	一人ひとりの嚥下の状態によって食事形態を変えております。又水分摂取量を記録し、水分不足にならないよう促しをしております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の力に合わせた口腔ケアを実施しております。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別記録に排泄を記録する事で排泄パターンを把握し、さりげなく声掛けし促す事でトイレでの排泄が出来るよう努めております。	個別に排泄の記録をつけて、回数や色などを目視し体調変化のサインを見逃さないよう観察している。日中は排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に向けた支援をしている。夜間のみポータブルトイレを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取の習慣づけや、食事の繊維物の提供、食後の排泄誘導等で便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく本人の希望に沿えるよう対応し1日、3,4人を目処に入浴して頂いております。又入浴を楽しんで頂けるようバスクリンや柚子を入れたりと変化をつけております。	入浴は週3回を目安に、本人の希望に添えるように対応している。入浴を拒否される方には誘導の仕方を変えたりして、できるだけ入浴して貰えるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況によって静養して頂いております。又日中はなるべくレクリエーションや体操等で活動して頂き、夜間おやすみ出来るよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書にて目的、副作用等理解し、服薬の大切さを確認すると共に、症状等の変化に気付けるよう観察、確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を振り返り、日々の中で楽しみや役割が見つかるようアプローチしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や庭の畑等に出かけております。年間の行事で花見等の見学も組み込んであり、なるべく外出する機会が設けられるように努めております。	週1回は近所を散歩して気分転換を図っている。月に1～2回はドライブを兼ねてスーパーに買い物に行ったりしている。また季節の花を觀賞に出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額ではありますが自身で管理されている方もいらっしゃいます。その他上限1万円としてこちらでお預かりしており、必要時に購入できるようにしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂に電話があり、自由に使用出来るようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝日の差込による不快等ないように注意を払っております。又寒暖の差がなく適温で過ごせるよう配慮しております。床は光が反射しにくいものとなっております。	共用空間は日差しが入って明るく、過ごしやすい温度に設定している。事業所の中は掃除が行き届いて清潔感があり、年に1回は清掃業者が入るなど衛生管理を徹底している。壁には利用者の作品が飾られている。	共用空間は季節感を出した演出やくつろげる場となるようなソファ等の設置などを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみの部屋を開放しており、談話等が出来るよう環境整備をしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談時に馴染みのものをお持ちいただいても大丈夫な事お伝えし、相談しながらお持ち頂いて、居心地良く過ごして頂けるよう心掛けております。	本人に合ったベッドや思い出の品、写真など持ち込んで自宅と変わらない環境を整備することができる。介護用のベッドを使用したい場合は、介護保険適用外ではあるがレンタルすることができる。	自宅には当たり前のように置いてあったであろう、嫁入り道具としての桐箆箆や鏡台などを居室に持ち込むことで、自分の家のような生活感のある居室作りを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ水道は押せば簡単に水が出る仕様であり、排泄の自立を促したものとなっております。		